

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名・教材名：資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう-

「固有種が教えてくれたこと」「グラフや表を用いて書こう」光村図書5年

2 単元目標

◎情報と情報との関係づけのしかた，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)

◎引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ)

◎目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり，論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ)

言語活動：筆者の説明の工夫について考えをまとめて話し合ったり，学校図書館等を利用して調べた統計資料を根拠に，意見文を書いたりする。

3 単元について

(1) 教材について

本教材文は，一読すると動物にあまり関心のない子どもたちにとっては，難解な言葉もありとっつき難い文章であるように感じてしまう。けれども，この教材に含まれている価値は多様である。多様な生き物が登場する。ただ，現在生息している動物の多様さだけではなく，数百万年に及ぶ進化の歴史にも言及されている。そこに，日本列島の成り立ち，様々な気候や地形的な条件等，地球規模のテーマにも含まれている。一方で，環境問題，生物の多様性の保護等，現代的なテーマも扱われている。この多岐にわたる内容が，実は筆者の1つの考えを主張するために論理的に展開されており，表現の工夫がされていることに気づかされる。子どもたちの考えや見方を深め，自身の世界を広げるきっかけとなる魅力がある教材であると考えられる。筆者の主張が伝わりやすくなるための工夫や，図表や統計グラフなどの資料を文章に関連させて読んだり，本論を二つに分け論を展開する筆者の意図を追究したりする過程で，自分の考えを形成する力を育むことができるという価値があると考えられる。ぜひ，そのような読み方を進められると良いと考える。

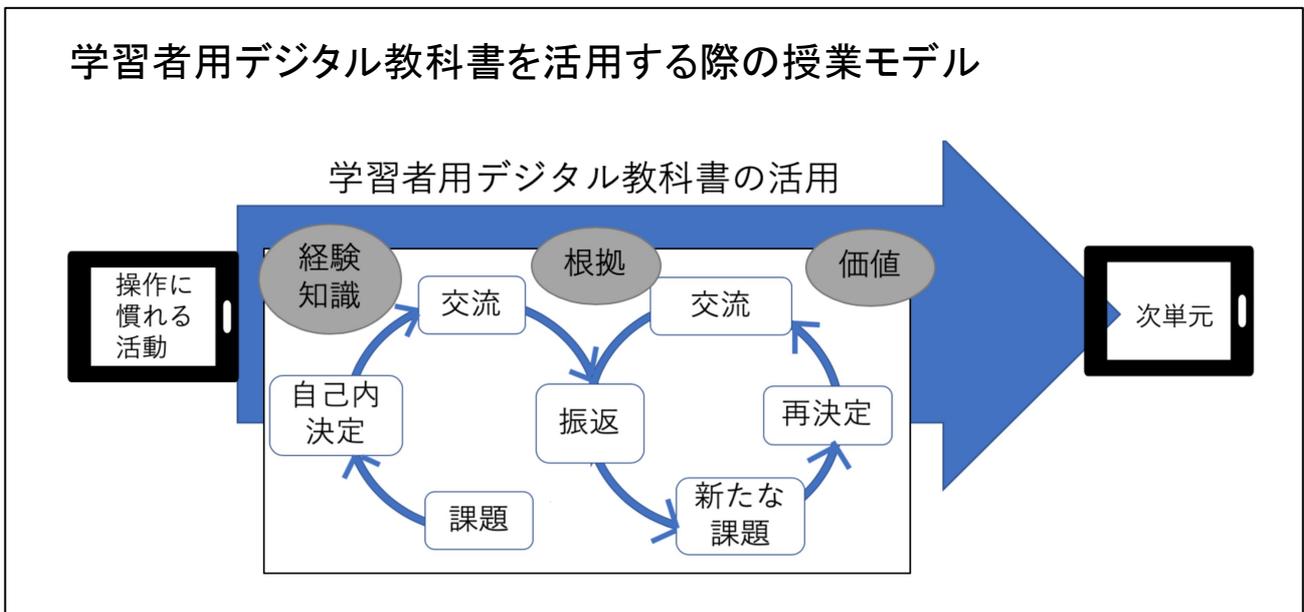
(2) 指導について

これまでに子どもたちは，第4学年では，「思いやりのデザイン/アップとルーズで伝える」で，段落相互の関係や文章と写真との関係を捉え，筆者の考えを捉える学習を経験してきている。また「世界にほこる和紙」では，中心となる語や文を見つけて要約するという学習にも取り組んできている。第5学年では，「見立てる/言葉の意味が分かること」では，意見などとの関係を，叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握することを学習してきている。

そこで，本単元においては「ウ 学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動」として「筆者の説明の工夫について考えをまとめて話し合ったり，学

校図書館等を利用して調べた統計資料を根拠に、意見文を書いたりする言語活動」を位置づけたいと考える。本単元では、これまでの学習の上に立って、主張を読み手に納得させる二段構えの論構成の工夫や、資料を用いた効果について自分の考えをもつことをねらいとしている。このことは、第6学年における資料に対する筆者の見方を捉え、それに対する自分の考えを形成していく学習へと発展していくと考える。

また、本単元では、学習者用デジタル教科書の活用によって、より自立的に、また対話的学ぶ子どもの育成をめざすことができると考えている。学習者用デジタル教科書の「本文抜き出し機能」は、教材文から言葉を自由に抜き出せるだけでなく、抜き出した表現の移動・削除を簡単に行うこともできる。子どもによって抜き出す表現は異なる。また、まとめ方にも違いが表れるだろう。指導にあたっては同じ画面に揃えようとするのではなく、あくまで子ども自身が理解したり説明したりするためのツールとして使わせるようにしたい。それと同時に、自分の画面にこだわり続けるのではなく、対話を通して相手の意見に納得したときは相手の意見を取り入れ、積極的に自分の読み方を広げられるよう指導する。というのも、初め個人で作成した画面は不完全で未完成なものにならざるを得ない。ペア対話を通して個人の気付きが広がり、一斉の場面では教師が介入することによってそれぞれの読みの視点が整理されていく。そして再び個人作業に戻り、対話を通して得られた新たな気付きを手がかりにして自分の読みを再構成し、さらにペアや一斉での交流を行い互いの読みについて理解を深めるのである。学習者用デジタル教科書、特に「本文抜き出し機能（マイ黒板）」を用いた学習は、こうした個別・ペア・一斉のサイクルを活発に回していくことが重要である。具体的には「学習者用デジタル教科書を活用する際の授業モデル」（図1）を参照されたい。この考えに立ち、本単元において本文抜き出し画面を活用する第6時と第7時は、2時間連続で実施するよう設定している。



<図1：学習者用デジタル教科書を活用する際の授業モデル>

4 指導計画（12時間扱い）

0時として：教材文の言葉が耳慣れないものが多いため、それで読むことをやめてしまう児童が出てこないように、事前に教室に以下に紹介するような筆者の本等を置いておき、興味・関心をもたせるようにしておくとうい。

- ・『おもしろい進化の不思議』
- ・『日本に固有種が多いわけ（固有種が教えてくれること）』
- ・『わけあって絶滅しました。 世界一おもしろい絶滅したいきもの』『北海道・本州・四国・九州にすむ固有種（固有種が教えてくれること）』

次	学習活動	デジタル教科書の活用例 【学：学習者】【指：指導者】
第一次 つかむ	<p>① 資料を活用した文章を読んだり書いたりする活動の見直しをもち、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元扉の写真の「アミノクロウサギ」や題名にある「固有種」という言葉に関心をもつ。 ・ 題名から自分の問いをもつ。 ・ 全文を通読し、興味を持ったところに黄色線（共感・納得・疑問）を引き、初発の感想を書いて伝え合う。 ・ 出てきた疑問や課題等をもとに、学習計画を立て、学習の見直しをもつ。 <p>「筆者の主張をつかむ→論の展開や、図や表の効果について考える→読んだことを書くことに生かす」</p>	<p>【指】単元扉の写真の「アミノクロウサギ」を大映しにして、気づきを共有する。</p> <p>【学】資料にある「今泉さんからの問いかけ」を視聴し、本教材の内容に関心をもつ。</p> <p>【学】教科書画面を使って、興味を持ったところに黄色線（共感・納得・疑問）を引いておく。</p>
第二次 深める	<p>② 全文を読み、「固有種が教えてくれたこと」の文章の構成を押さえて「論の展開」を確認し、文章の内容の大体をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「筆者の主張」には「赤線」を引く。 ・ 全体の文章構成を確認する。 <p>はじめー第1・2段落 中ー第3～10段落 おわりー第11段落</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「中」の部分の「論の展開」の工夫に気づく。 <p>「事実」とそこから「分かったこと」 「中」は2つに分かれているらしいこと</p> <p>A：段落③④⑤⑥/⑦⑧⑨⑩ B：段落③④⑤⑥⑦/⑧⑨⑩</p> <p>→「小見出し」をつけるなどして、「B：段落③④⑤⑥⑦/⑧⑨⑩」の分け方がよいのではという気づきを持たせる。</p> <p>→「中」の部分は、第3時に詳細に読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「はじめ」と「終わり」に書かれている「筆者の主張」をつかむ。 <p>文末表現を確認</p> <p>2段落：わたしは～考えています。 11段落：～いかなければなりません。 ～ないでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「はじめ」と「終わり」にある「筆者の主張」を、マイ黒板にカード化して整理する。 	<p>【学】例えば、「筆者の主張」に赤線、「事実」に青線、「事実から分かったこと」に緑線を引きながら読む。線の色に関しては、各学級のこれまでのルールに従って決めるとよい。どんどん線を引き、だんだんと重要な部分に絞っていけるようにする。</p> <p>【指】学習者の画面を拡大提示するなどして、それぞれの気づきを共有し、大事な点に関しては押さえる。</p> <p>【指】マイ黒板を出して、操作のしかたを確認する。ここでは、これまでのマイ黒板の慣れに応じて、説明する。また、第4時には、このマ</p>

	<p>③ 教材文の「中」の部分にある図表やグラフ、写真から情報を読み取り、資料の活用の効果について理解を深めると共に、「中」の論の展開を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中」が2つに分かれていることを本時で明確にすることを確認する。 A：段落③④⑤⑥/⑦⑧⑨⑩ B：段落③④⑤⑥⑦/⑧⑨⑩ ・資料と文章とを関連づけながら読む。どのような「事実」が書かれているのか、その「事実」を裏付けている資料はどれか、その「事実」から何が「分かった」のか等を明らかにしながら読む。 ・資料がいくつあるかの、それぞれの資料はどの段落に対応しているか確認する。 ・資料1～7から、情報がわかりやすい資料(○の印)をつけたり、この資料があるよさやもしその資料がなかったら等、考えを交流したりする。 発問例①： 「筆者は、それぞれの資料を示すことで、何を伝えたかったのでしょうか」 発問例②： 「資料を読む時に、どんなことを注意しましたか」 発問例③： 「資料がついていることで、どんな点がわかりやすいでしょうか」 ・図表やグラフ、写真や文章を行き来しながら、事実から「分かったこと」に「緑線」を引く。「B：段落③④⑤⑥⑦/⑧⑨⑩」の分け方がよいことを確認する。 <p>④ 「中」に書かれている内容を、マイ黒板(すでに筆者の考えは抜き出し済み)でカード化して整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で、書き込んだ教科書画面を、マイ黒板を使って整理することを確認する。 ・「中」の部分のそれぞれの段落で、筆者が読者に伝えたいことをマイ黒板にカード化する。 ・段落「③④⑤⑥⑦」と段落「⑧⑨⑩」のまとまりに小見出しをつけ、マイ黒板に書き込む。 	<p>マイ黒板を使ってカードを追加していくことを確認する。</p> <p>【学】2段落と11段落から「筆者の主張」の文章を抜き出して、カード化する。</p> <p>【学】前時に線を引いた「筆者の主張」「事実」「事実から分かったこと」を確認する。</p> <p>【学】資料が出てくるところは、資料と文章を線で結んでみる。「事実」とその資料から読み取れる根拠をつかむ。</p> <p>【指】学習者の画面を拡大提示するなどして、それぞれの気づきを共有し、大事な点に関しては押さえる。学級の実態に応じて、ペアで対話的に進める学習としてもよい。</p> <p>【学】「中」の部分で筆者が読者に伝えたいことをマイ黒板にカード化して整理する。小見出しなどつける工夫も考えられるとよい。</p> <p>【指】学習者の画面を拡大提示するなどして、それぞれの気づきを共有し、大事な点</p>
--	---	---

	<p>⑤ ⑥「固有種が教えてくれたこと」とはどのようなことなのか、自分の気になる視点を中心にして要旨にまとめる。 *本時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が考える「固有種が教えてくれたこと」とはどのようなことなのか、図表やグラフ、写真の情報と文章を行き来しながら、キーワードに気づき、キーセンテンスの選択をより精査していく。 ・筆者の主張に対する自分の考えを「赤の付箋」に書き出す。 ・自分の気になった視点を中心に、要旨をまとめる。 <p>⑦ 自身が選んだ統計資料のある文章を読み、その読み方のポイントをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表を説明するときの注意事項 ・書き出しや接続詞の使い方について <p>⑧ 自身が選んだ統計資料のある文章の要旨を伝え合う。</p>	<p>に関しては押さえる。小見出しの工夫などをして、紹介することも考えられる。小見出しの書き込みの方法は、手書きでも付箋に入力する方法でも、自分のやりやすい方法でよいことを伝える。</p> <p>【学】④までの学習をもとに、「固有種が教えてくれたこと」とはどのようなことなのかマイ黒板を使って整理する。</p> <p>【指】学習者の画面を拡大提示するなどして、それぞれの気づきを共有し、大事な点に関しては押さえる。</p>
第三次 広げる	<p>⑨ ~ ⑫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題に沿って、非連続型資料を用いた説明文を書く。 	

5 本時について

(1) 本時の目標

「固有種が教えてくれたこと」とはどのようなことか、要旨にまとめることができる。

(2) 本時の展開

時間	学習内容	指導の留意点
2分	<p>1 前時を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p>「固有種が教えてくれたこと」とはどのようなことか、要旨をまとめよう。</p> <p>・「学習の流れ」の確認 1時間目：個の学び①（10分）→ペアの学び（10分）→全体の学び（10分）→個の学び②</p>	<p>●筆者の論を裏付けるために資料が役立っていたことを想起する。</p> <p>●個の学びとペア、全体の学びを積み重ねて自分の考えをまとめられることが大事であることを確認する。</p>

10分	<p>(13分) 2時間目：ペア(10分)→全体(7分)→個の学び③(8分)→個の学び④(18分)</p> <p>2 (個①) 前時にまとめたマイ黒板を確認する。 ・「日本に固有種が多い理由」と「ずっと生き続けてこられた理由の明確化」 ・キーセンテンスやカードの配置の確認 ・どうしてそこを抜き出したのか、理由を明確に説明できるようにしておく。</p>	<p>●前時を想起し、カードに抜き出したキーセンテンスや小見出しを確認したり、間隔を開けて見やすくしたりするよう指示する。 ●前時にカード化できていない児童は、事前にチェックをしておき、ペアでの交流までにカード化しておけるように助言する。 ●筆者の論の展開がつかめるように、一枚の黒板にまとめているか確認する。また、文章の構成が分かりやすいように線を入れたり矢印をつけたりして工夫している児童をチェックしておく。</p>
10分	<p>3 (ペア) 互いの読み取りに関して、マイ黒板を見せ合い、比較しながら話し合う。 ・抜き出したキーセンテンス、小見出しやカードの配置の工夫等、確認したり根拠を出して話し合ったりする ・ペアの友達の考えと共通するところ ・自分の考えと差異があった場合には、友達の考え方に納得できるか、しっかり話し合う。</p>	<p>●ペア学習においては、まず、「互いの画面を見せ合う→共通点や相違点があるかを確認する→相違点について考えを交流する」という学び方を確認する。相違点について話し合うときには、カードの内容を提示しながら説明するように指示する。また、自分の読み取りを確認するだけでなく、「筆者の言いたいことを明確にするために、より言葉を精選すること」が大事であることを話しておく。 ●一人でずっと話しすぎることをないようキャッチボールの対話を心がけるように声かけする。 ●相手の意見に納得したら、自分の考えを修正し、自分の画面に取り込んでもよいが、修正に時間をかけてしまうペアがあったときには、全体の話し合いの後に修正する時間があることを声かけする。 ●全体の学びの場で、どの児童の考えを共有していくか、机間指導をしながら決めておく。</p>
10分	<p>4 (全体) 「固有種が教えてくれたこと」の論の展開や筆者の主張について、「カード」に抜き出したキーセンテンスやその画面をもとに話し合う。 ・筆者の考えの確認 ・論の展開と白カードの配置の工夫 「はじめ」→「中」(事実と分かったこと)→「終わり」 ・「中」にある2つの理由(小見出し)の確認</p>	<p>●より短く抜き出している、抜き出したカードの近くに手書きや入力で説明を短く書いている児童がいれば、全体で取り上げながら話し合う。 ●教材文の全体を見通しての話し合いになる。 ●難易語句に関しては、児童の実態に応じて扱うようにする。</p>

13分	<p>5 (個②) ペアや全体で話し合ったことをもとに、マイ黒板を整理しなおし、自分の考えを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より絞った文章の抜き出し ・カードの配置の見直し ・筆者の主張に対する自分の考え (赤付箋) キーワードでの記入 	<ul style="list-style-type: none"> ●文中の表現は、できるだけ短く抜き出しておくと要旨をまとめる際にまとめやすいことを助言する。 ●要旨がまとめられるくらいにカードの文章を精選できた児童は、「赤付箋」に筆者の主張に対する自分の考えを書き加えていくように指示する。その際に、<u>第一次で引いた黄色線</u> (共感したのか、納得したのか、疑問を持ったのか) の部分と比較するとよいことを助言する。
10分	<p>6 (ペア) 筆者の主張に対する自分の考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張に対する自分の考え 初発の感想→学習後の考えの比較 筆者の主張に共感、納得したか、疑問をもったのか ・資料の活用に関しての考え 	<ul style="list-style-type: none"> ●本時前半に示した画面との違いを想起させ、どのように変化したか説明し合うように指示する。その際には、画面を指し示して説明するように指示する。 ●筆者の主張に納得したか、疑問に感じたことはないかを、ペアで話し合うことで、より明確にすることをねらいとして交流することを話す。 ●一人で話しすぎることをないよう対話を心がけるように繰り返し指導する。 ●友達の話聞いて納得したら、取り入れたり、「赤付箋」の内容を修正したりするよう助言する。
7分	<p>7 (全体) 筆者の主張に対する自分の考えを出し合い、様々な見方や考え方があはることに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「筆者の考え」に対して 固有種を守ることは日本の環境を守ることにつながることは理解できて、納得。 固有種も大事だけれど、絶滅危惧種にも目を向けたい。 もっと人が環境を壊していることを伝えた方がよいのではないかな。 ・資料のよさ 言葉だけではイメージしにくいことを図表やグラフ、写真で補う。 図表やグラフを正確に読み取る力が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教師との1対1対応になったり、教師が児童の発言を受けて解説しすぎないように留意する。
8分	<p>8 (個③) ペアや全体で話し合ったことをもとに、「赤付箋」の内容を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードの追加、修正 	<ul style="list-style-type: none"> ●考えをまとめられない児童には、再度、全体での話し合いを確認するよう助言する。 ●次の活動である「意見文を書く」ことにつながる学習であるので、全員が自分の考えを持つことができているか、丁寧に確認をする。

18分	<p>9 (個④) ペアや全体で話し合ったことをもとに、要旨とそれに対する自分の考えをワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・200字程度にまとめる。 ・なかなか書けない児童は、「カード」に抜き出したキーセンテンスをまとめ、そこに「赤付箋」を参考にしながら自分の考えを入れて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでのマイ黒板に蓄積してきた「カード」と「赤付箋」をもとに、ワークシートにまとめるように指示する。 ●うまく要旨と自分の意見を書けない児童には、以下のような雛形を示すのもよい。 「私は、今泉さんが主張について納得した。→今泉さんの主張は～（要旨）です。→なぜならば、～（自分の経験や知識）～だからです。」
2分	<p>10 (全体) 次時は、これまでの学びを生かして、自分が選んだ資料付きの文章を読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●次時までには、それぞれが資料付きの文章を見つけてくるように指示する。ただし、学級の実態に応じて、教師の方で数点の文章を用意しておくこともあり得る。

【評価】

- ① 対話を通して、「中」を読むための「カード」や小見出し、自分の考えを書き込む「赤付箋」が増加したり書いた内容が変化したりしている。(マイ黒板)
- ② 要旨をまとめ、筆者の主張に対する自分の考えを明確に記述できている。(ワークシート)